

ブラジルを通じた異文化理解

学校所在府県：京都府

学校名：京都聖母学院中学校・高等学校

名前：中田 悠志（社会）

実践教科：地理

指導時数：5 時間

対象学年：高校 3 年生（1 クラス）

対象人数：12 人

1. 教師海外研修を通して感じたこと

初めて地球の反対側に行き、見聞きするすべてのことが驚きと不思議の連続であった。社会というのは、それを作る人間が違えばこんなにも違うものなのかと、世界観がとても広がった。しかも、そこに日系人が多く住んでいることも私にとって大きな驚きであり、ややたどたどしい日本語を使う彼らとブラジルの地で話していると、とても不思議な気持ちになった。今回の研修によって私自身の視野が広がり、生徒に伝えられる引き出しが増え、教員として大きなレベルアップがはかれたと思う。単に教科書に書かれている事柄を、自分で経験したこともないのにも関わらず教えていることに違和感を覚えていた私にとって、自分の目で見て感じたことをベースに生徒に教えることの大切さを実感できる実りの多い研修でもあった。授業実践を受けた生徒の反応は総じて良く、多くの刺激を受けているようであった。

やはり実践授業を作るのは大変な作業ではあったが、JICA での事前・事後研修がとても充実しており、多くのヒントをいただけたことが大きかった。そして何より、この研修で一緒にブラジルに行った 10 人の仲間が共に支え、励まし合い、協力し合ったことこそが、この研修を成功裏に終わらせることができた最大の要因ではなかったかと思う。

2. カリキュラム

(1) 実践の目的・背景

生徒に異なる社会と文化に対する理解を深めさせることと共に、国内にいる日系ブラジル人の状況を知り、その問題解決を考えることを通して他者理解を推し進めていくことがこの実践の目的である。この実践目的の背景には、生徒がまれに普段の学校生活等の場で自分と異なる同級生を排除したり、受け入れようとしなかったりする行動をとる状況がある。これは生徒に限ったことではなく、大人の中にも異質な存在に対して排除の論理を推し進めようとする狭隘な考え方をする人がいる。日系ブラジル人についての学びは、このような他者理解と受容のための一つの契機となりうるはずであろう。

そもそも生徒にとっての異文化は身近に存在している。同級生は一人ひとり異なっているから、ある意味学級は異文化を持つ人たちの集まりの場ととらえることも可能である。したがって、日系ブラジル人について考える授業は、ひいてはよりより人間関係を身近な範囲から考えようとする作業にもつながっていくのである。

(2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 時限目 ブラジルを知ろう！① *ブラジルについての基本的な知識の共有化をはかる。	<ul style="list-style-type: none">● ブラジルと聞いて思い浮かぶものやイメージを自由に発表するブレインストーミングを行う。● ブラジルについてのクイズをする。	<ul style="list-style-type: none">● パワーポイントのスライド

2 時限目 ブラジルを知ろう！② * フォトランゲージの手法を使い、ブラジル社会について考察する。	● フォトランゲージでブラジル社会の特徴に気付く。	● パワーポイントのスライド
3 時限目 ブラジルを知ろう！③ * モノランゲージの手法を使い、ブラジル社会について考察する。また JICA の活動を知り、興味・関心を持つ。	● モノランゲージでブラジルを知る。 ● ブラジルでの JICA の活動を知る。	● パワーポイントのスライド ● アサイーのプレスレット、カカオの実、黒コショウ、白コショウ、コーヒー、ブラジルの打楽器、ピラニアの剥製、ピラルクの鱗
4 時限目 日系ブラジル人について知ろう！ * なぜブラジルに多くの日系人がいるのか、という歴史的な背景と現状とを知る。	● 日系ブラジル人の歴史的背景と現状について知る。	● パワーポイントのスライド ● 動画「5分でわかる日本・ブラジル移民交流 100年の歴史」
5 時限目 異文化理解・他者理解に向けて * 日本にいる日系ブラジル人の状況をロールプレイの手法を使いながら疑似体験することで、問題解決に向けた方法を模索し、内面化を図る。	● 「転入生は日本人？ブラジル人？」のロールプレイによるワークショップを行う。	● 登場人物の言葉を書いた紙とそれを入れる封筒 ● ダイヤモンドランキング

3. 授業の詳細

1 時限目：ブラジルを知ろう！①

ねらい…ブラジルについての基本的な知識の共有化をはかる。

◆内容◆

① プレーンストーミング

グループをつくり、その中で自由に「ブラジル」と聞いて思い浮かぶことやイメージすることを自由に出し合う。その後、グループごとに出てきた事柄を全体に発表し、全体にシェアする。

② ブラジルについてのクイズ

国旗の色・言語・日本からの距離・ブラジルの大きさ・日本で活躍しているブラジルに関係する人・サンパウロで私がとても気になったことを通してブラジルの概要をクイズ形式で学ぶ。4 の選択肢から答える問題を作った。教室の 4 つ角に①～④の張り紙を予めしておき、互いに相談し、自分で考えて正しいと思う番号のところに生徒が移動することで解答するスタイルをとった。

第5問

サンパウロの街中で私がとても気になったものは何でしょう？

① 落書きの多さ
 ② 野良犬の多さ
 ③ サッカーしている人の多さ
 ④ サンバを踊っている人の多さ

答えは…

ブラジルクイズ①

第6問

ブラジル出身の人はどれ？

①ダレノガレ明美



②マルシア



③ラモス瑠偉



④中田悠志



答えは…

ブラジルクイズ②

◆所感◆ 思った以上に高校生でもブラジルについてのイメージや知識が少なく、さらに個々人によってその知識量にもばらつきがあった。したがって、ブレイクストーミングをすることで、生徒の理解で不足している箇所を生徒同士で補い合いながら、共通の土台を作ることができたことは、これからブラジルの授業をしていく上でとても良かった。またクイズをする際にも、単に教員が質問して生徒が答えるという良くある形は避け、教室の中に貼られた番号の紙のところに行って答えるという形をとったことで生徒が退屈せず、またいろいろ考え相談することが出来たのでとても良かった。

生徒の感想

▶ 私はブラジルといったら、「サッカー」とか「日本の反対側」とかしか思い浮かびませんでした。が、国旗のことや場所、公用語や街の様子などとても内容の濃い授業で、ブラジルについて興味を持つことができました。

2時限目：ブラジルを知ろう！②

ねらい…フォトランゲージの手法を使い、ブラジル社会について考察する。

◆内容◆

- ① 4つのグループを作り、それぞれに1枚ずつ写真を配った。これらの写真は、今回のブラジル研修で撮ったものを大きくプリントアウトしてラミネート加工をしたものである。
- ② 写真をじっくり見て、グループ内で気がついたこと、考えたことを自由に出し合い、イメージを膨らませていく。
- ③ 各グループから発表しつつ、教員からの補足説明を行う。



スーパー



学校

生徒の感想

- ▶ 写真を見て「分析」する力は身体の中からわきあがってくると思います。この授業でまた一つ新しい自分を発見できたと思います。日本と異なる文化を持つ人を学ぶのはとても楽しかったです。
- ▶ スーパーでのお年寄りや身体障害者のための優先レジがあるのはびっくりしました。日本でもこのようなサービスをやればいいのと思いました。
- ▶ 写真を見て想像するのは楽しかったです。
- ▶ 前回までの授業でブラジルには様々な人種の人がいると聞いていたけど、学校の写真を見てびっくりしました。日本は他人と同じことを好むけど、ブラジルは他人と違って普通ということを知って素晴らしいと思いました。
- ▶ ブラジルの学校の先生が、ブラジルには日本のようないじめがないと言っていたことに驚きました。みんな違うからいじめが起らない。
- ▶ ブラジルの季節は冬なのに半袖の人や扇風機があり、まるで夏のような感じでした。
- ▶ 同じ地球にいるとは思えないくらい違いがありました。日本よりも人にやさしい場所がたくさんあるように思いました。

3時限目：ブラジルを知ろう！③

ねらい…モノランゲージの手法を使い、ブラジル社会について考察する。
また JICA の活動を知り、興味・関心を持つ。

◆内容◆

- ① それぞれのグループにブラジルで入手してきた実物教材を渡す。
- ② それぞれのグループでそれが何なのかを相談する。
- ③ それぞれのグループの机の上に、実物教材に関係する写真を置く。
- ④ 生徒はグループごとの机を回りながら、そこに置かれている写真を見て、自分の持っている実物教材に関係の深い写真のあるグループの所に座る。
- ⑤ グループごとに、実物教材が何なのかを全体に説明し、なぜその写真がそのモノに関係していると思ったのかを発表する。
- ⑥ 最後にファシリテーターである教員からそれぞれの実物教材についての説明を行う。
- ⑦ JICA の活動をパワーポイントを使って説明する。

◆所感◆ 生徒にとっては、実物教材とそれに関連する写真とをうまく一致させることが難しかったようである。これほど今日の経済活動は最終生産物を消費する私たちから中間生産物が疎外されているのだということを感じた。

生徒の感想

- ▶ コーヒーがもともと赤い実だということに驚きました。
- ▶ 川へのポイ捨てが多くて、あれほどペットボトルなどのゴミがたまっているのを見ると、環境意識が低いことが良く分かった。ブラジルに日本の文化が取り入れられて、ブラジルの街が少しでもきれいになっているのなら、日本人としてとてもうれしいことです。
- ▶ 普段自分たちが食べるチョコレートやコショウなどの元の状態を意外に知らなくて、予想もつかないような色や見た目でした。

4時限目：日系ブラジル人について知ろう！

ねらい…なぜブラジルに多くの日系人がいるのか、という歴史的な背景と現状とを知る。

◆内容◆

- ① パワーポイントを使って今回のブラジル研修で見てきたリベルダーヂ地区などを紹介する。
- ② 研修でブラジルに渡る前に訪れた神戸にある移民ミュージアムの写真を見せながら、当時の様子を紹介する。
- ③ 日本人のブラジル移民に関する動画を丁寧にしながら学ぶ。

生徒の感想

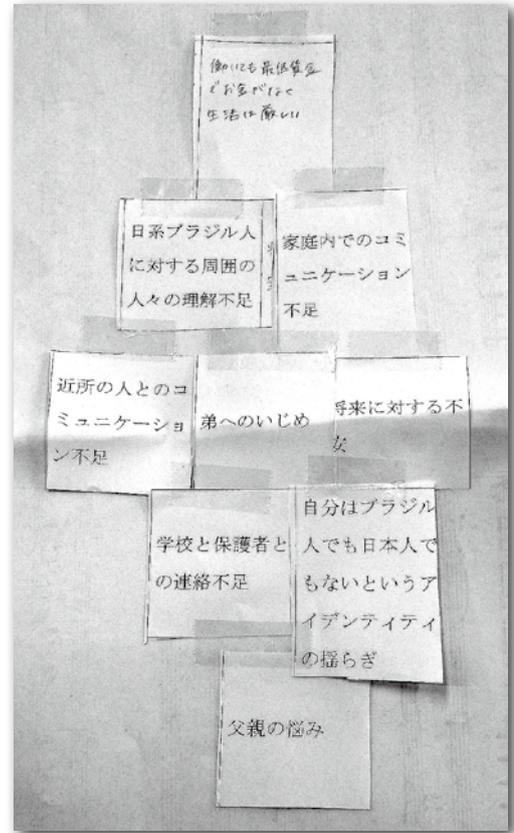
- ▶ ブラジルと日本のつながりがこんなに深いなんて知りませんでした。日系ブラジル人の始まりを知り、ブラジルでの日本の影響を学ぶことができてとても勉強になりました。日本の反対側でも日本人らしさを忘れずブラジルのために頑張っている人が多くいると聞いたので、今まで以上に日本とブラジルが仲良く協力し合えるようになってほしいなと思いました。
- ▶ 移民したブラジルで彼らを待っていた過酷な労働。しかしその労働を乗り越えて成功した日本人のまじめさ、我慢強さがすごいと思いました。日本人ならではの「信用・信頼できる」という人柄がブラジルにも広がって嬉しいです。ブラジルとだけでなく、他の国ともこのような関係になっていって欲しいと思いました。
- ▶ 自分の学校にも日系ブラジル人がいることに驚きました！

5時限目：異文化理解・他者理解に向けて

ねらい…日本にいる日系ブラジル人の状況をロールプレイの手法を使いながら疑似体験することで、問題解決に向けた方法を模索し、内面化を図る。

◆内容◆

- ① アユミさんという日本に来た日系ブラジル人の〈シナリオ〉と〈アユミさんの家庭環境〉を読み上げる。
- ② グループに分け、それぞれにワークシート「アユミさんに何が起きたのか？」を配布する。
- ③ 各グループの代表者が封筒の中からカード「アユミさんの周辺の言葉」を好きなところから1枚ずつ取りに行き、グループに持ち帰って読む。(一度に複数のカードを持ちかえってはいけない。)
- ④ カード「アユミさんの周辺の人々の言葉」に書いてある情報をもとに、ワークシート「アユミさんに何が起きたのか？」の問いに答える。
- ⑤ アユミさんはどんな問題に直面していたかについて、グループごとに発表する。この発言例はあらかじめ9枚のカードにまとめておく。
- ⑥ ⑤で考えた問題の内、早急に解決すべき問題をいくつか選び、その解決に向けてどんなことができるかについてグループで考える。この時、9枚のカードを使って、ダイヤモンドランキングを作り、模造紙の上に貼る。
- ⑦ ダイヤモンドランキングをグループごとに発表する。



ダイヤモンドランキング

生徒の感想

- ▶ 日本人でもブラジル人の間で苦しむ日系人、それを私はコミュニケーションで支えたいと思います。
- ▶ 日系ブラジル人という言葉を目にする機会が最近増えてきましたが、日系ブラジル人のことを本当に理解している人は少ないと思います。なので、「相手のことを理解する」という授業を設け「日本人が思う日系ブラジル人」そして「日系ブラジル人が思う日本人」をじっくりと学ぶ必要があると思います。人は誰でもが優しい心をどこかしらに持っています。こういった授業を受けることで、人の心を理解してくれる優しい友達はたくさん出てくると思います。もし私が日系ブラジル人の会の会長なら全国の学校で講演して、異文化への壁を取り払いブラジルの良さなどを伝えていきたいと思いました。
- ▶ この授業を通して、自分もブラジルに行ったかのようにたくさんを知ることが出来たと思います。ものすごくブラジル人とブラジルに興味を持ちました。
- ▶ 日本は自分と違った人を批判してしまいがちですが、これからの日本の発展には様々な国の協力が必要だと思うので、もっと他国の人を敬うべきだと思いました。何も特別扱ったりするのではなく、日本人と同じように接していくことが大切だと思うので、日系ブラジル人に対する偏見がなくなり、誰もが平等に扱われる社会になってほしいです。
- ▶ 今の私たちでは貧しい生活がかわいそうに思えても、お金の支援はできません。しかしその人たちと何度も話し、みんなと協力して暮らせるように支えてあげたいです。周りの人たちから理解してもらえていると思えることで、日本にいる外国人の人たちは暮らしやすくなると思います。困っている時に助けてあげられる友達になりたいです。

4. 成果

ブラジルについて単なる知識としてではなく、驚きと感動、そしてリアリティを伴った異文化理解を体験させることができた。フォトランゲージやモノランゲージは極めて有効に機能し、主体的な学びを促すことができたので、これによって能動的な知識獲得の行動につながったと思われる。また、ロールプレイのワークショップを通して、生徒は問題を抱える人の存在の状況を追体験し、その問題解決に関わろうとしていた。これにより、異文化間の摩擦によって生じる社会問題に関わっていこうとする基本的な姿勢を獲得できたといえよう。

5. 課題

異文化理解・他者理解を一定程度推し進めることができたが、一方で主体変容が不十分であるため社会改善に向けた行動に結びつくとは言い難い教育効果しかもたらさなかった。異文化間の摩擦によって、人の意識がもたらす社会問題を認識したものの、自分にできることとなると十二分に思考を掘り下げることはできず、生徒の中では結局は「こうなったらいいな」という他人任せのような結論に落ち着いてしまうきらいがある。高校生を学習者の対象としている上での限界なのかもしれないが、いかに社会活動につながる行動に結び付けられるような授業へと発展させていくかが今後の課題であろう。

加えて、授業対象学年が中学生の場合、他力本願的な結論に至る傾向はさらに強くなる可能性が高く、単なる知識獲得のためだけの授業になってしまう危険性もある。これを回避するため、よりグループ活動や発表などを時間をかけて丁寧に行っていく必要がある。

参考資料 映画「孤独なツバメたち」2012
高橋幸春『日系人の歴史を知ろう』岩波書店 2008

資料 〈シナリオ〉

あなたのクラスにある日、転入生がやってきた。彼女の名前はアユミ。17歳。

教室に初めて入ってきた時に、彼女はやや緊張した表情をしていた。担任の先生が黒板に彼女の名前を書いた。「鈴木アユミ・パウラ」。少し日焼けした肌をしていて、落ち着いた顔立ちの女の子がたどたどしい口調で自己紹介をした。なんだかちょっとどこかの訛り（なまり）があった。よく知らないけど、日系ブラジル人なんだとか。

アユミさんはその持ち前の明るさから、学校生活を楽しく過ごすようになった。あなたもアユミさんと仲良くなって、一緒にお昼を食ったりしていた。でも、彼女の笑顔の隙間からは時々、暗い表情が見られることもあった。「どうしたの?」と聞いても、「ううん、何でもない」と返事をするだけだった。その後何事もなく日々が過ぎていったある日のことだった。

アユミさんが突然学校に来なくなった。それが何日も続き、彼女に何があったのか心配になってきたあなたはアユミさんに連絡をとろうとしましたが、アユミさんは電話にも出ないしメールを送っても返ってきませんでした。

そこであなたは最近のアユミさんについて彼女の周辺の人に聞いて調べてみることにしました。

〈アユミさんの家庭環境〉

父親	雅也・エドアルド	年齢	47歳	自動車部品工場勤務
母親	桜・ベ ト	年齢	42歳	ホテルの皿洗い
弟	穰・エ ン ヒ	年齢	12歳	中学1年生